

# 教育実習における研究協議のあり方： フリー発言型とワークショップ型の比較

糸岡 夕里<sup>1)</sup>

How to advance the reflective discussion in teaching practice

Yuri Itooka<sup>1</sup>

Key words: teaching practice, reflective discussion

(Bulletin of Department of Physical Education, Faculty of Education,  
Ehime University, 9,21-27, March, 2014)

キーワード：教育実習，研究協議

## I はじめに

現代の教員に必要な資質には、子ども一人ひとりの成長に応じた支援，ならびに複雑な社会から要請される多様なニーズへの対応が求められており，これらは伝統的・画一的な授業方法・教育方法では解決しきれないものである。

とりわけ，教室には多様な生活背景をもった子どもが存在するので，一人ひとりの子どもがその多様なニーズに応じた自己の学びを追求できるように一斉授業，個別指導，相互学習を組み合わせることで授業の質を改善するだけでなく，教員がチームとして子どもの成長をトータルに把握し，必要に応じて地域の支援・援助者たちとも協力しながら教育にあたらなくてはならなくなっており，これらを可能にする資質が教員には必要である。

また，変動の激しい世界では，学び方を学ぶ，学び続ける力を養うということこそ重要になっており，新しい資質が現代の教員には求められている。

教育実習は，学校現場での教育実践を通じて，学生自らが教職への適性や進路を考える貴重な機会であり，大きな役割が期待される。前述の通り，現代の教員に必要な資質がより高度化しており，教科内容の専門性

を重視した開放性による養成では，その変化に対応しきれないことが危惧されている（教員養成の在り方に関する特別委員会，2010）。

教育実習は，教職を目指す学生が学校現場に身を置き，学習者から指導者となって学校教育の現状を認識するとともに，実践的な取組を通して「学校の機能」「教員の職務」「幼児・児童・生徒の発達特性」などを総合的・体験的に学ぶ場である。そこでは，自らの授業実践とともに同僚（実習先の教諭や同じ立場の実習生）の授業を観察し，ともに授業改善について考えるなかで実践的指導力を高めていくことが重視されている。実践的指導力を高めていくための1つには，その授業をふり返ること，すなわち研究協議のあり方が重要となる。

そこで本研究では，教育実習における授業実践の研究協議を対象とし，その進め方についてフリー発言型とワークショップ型の比較検討を行うこととした。より質の高い研究協議を行うことができれば，よりよい授業実践へとつながり，教員の質保障へとつながると考えた。

1) 愛媛大学教育学部  
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

1. Faculty of Education, Ehime University,  
Bunkyo-cho 3, Matsuyama-shi, Ehime,  
〒790-8577, Japan

## Ⅱ 方法

### 2-1. 対象とした研究協議および学生

愛媛大学教育学部では、3年生の9月から10月にかけて、附属校園において5週間の教育実習が位置づけられている。教育実習の中で実習生は、3回以上の指導案授業とその研究協議が設定されている。

本研究では、附属小学校第4学年の研究協議を対象とし、その授業者を含む教育実習生4名および研究授業の

対象となったクラスの担任である実習指導教諭1名を対象とした。

なお対象とした研究協議の授業は、体育科の表現運動の領域であり、図1はフリー発言型研究協議を行った授業の指導案、図2はワークショップ型研究協議を行った指導案について示した。

実施日については、フリー発言型研究協議が9月26日、ワークショップ型研究協議が10月2日に行った。

第4学年〇組 体育科指導案		
(1) 目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体全体を使い楽しみながら表現することができる。</li> <li>○ グループの仲間と協力し、人に見せる表現を考えることができる。</li> </ul>		
(2) 準備 デッキ、CD、マイク、リズム太鼓、ホワイトボード		
(3) 展開		
学習活動	予想される意識の流れ	○指導上の留意点●評価
1 リズムダンスをし、体をほぐす。	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">楽しみながら体をほぐそう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(体育館中を動き回ろう)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(体を大きく動かそう)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(おもしろい動きができた)</div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リズム太鼓や教師の言葉掛けによって、楽しく学習を行っていくための雰囲気をつくる。</li> <li>○ 動きを大きくできるよう、言葉掛けを行う。</li> </ul>
2 グループで、曲を聴きながら体を動かす。	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">曲を聴いてイメージしたものを表現しよう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(海賊になって戦いをしてみよう)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(今日はどんな忍者になってみようかな)</div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じ曲を聴きながらも、いろんな動きを考えられるよう言葉掛けを行う。</li> <li>● 体全体を使い楽しく表現することができたか。</li> </ul>
3 発表の説明を聞く。	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">4 ☆アターを作ろう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(楽しそうだなあ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(早く作りたい)</div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水分補給をして集合する。</li> <li>○ 今までの約束事を確認し、初めと終わりのポーズを作るよう指示する。</li> </ul>
4 グループで発表練習をする。	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">協力して表現を考えよう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(観客にはどのように見えるかな)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(みんなでどう動こうかな)</div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体を回りながら、ひとまとまりの発表ができるよう、言葉掛けを行う。</li> <li>● グループの仲間と協力し、人に見せる表現を考えることができたか。</li> </ul>
5 振り返りを行い、発表の確認を行う。	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">今日の活動を振り返ろう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(うまく発表できるといいな)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(他のグループを見るのが楽しみ)</div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次時の発表についてどのように行うか確認する。</li> </ul>

図1 フリー発言型研究協議を行った授業の指導案

## 第4学年〇組 体育科指導案

(1) 目標

- 軽快なリズムに乗って体を大きく動かすことができる。 (技能)
- 互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる。 (態度)

(2) 準備 CDデッキ、マイク、リズム太鼓、ホワイトボード

(3) 展開

学習活動	予想される意識の流れ	○指導上の留意点●評価
1 リズムダンスをし、体をほぐす。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">楽しみながら体をほぐそう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(今日も楽しく踊れた)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(体を大きく動かせたかな)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(ダイナミックに動けた)</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ BGMや教師の言葉掛けによって、楽しく学習を行っているための雰囲気をつくる。</li> <li>○ 大きく踊るために指先の位置を意識させる。</li> </ul>
2 お手本に合わせて体を動かす。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">先生の動きを真似して動こう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(かっこよく動いているんじゃないかな)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(テンポについていくのが難しい)</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもたちの動きのヒントとなる動きを織り交ぜながら師範する。</li> <li>● 体全体を使い、軽快なリズムに乗って、体を大きく動かすことができているか。</li> </ul>
3 工夫した動きを考えながら踊る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自分で動きを考えながら 同じグループの仲間と共有しよう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(動きを考えるのが楽しい)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(みんな工夫して動いているな)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(自分だけの動きを思いついたぞ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(先生の動きをアレンジしてみよう)</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループの人数やメンバー構成を変えながらいろいろな動きを味わわせる。</li> <li>○ 先頭の子どもには、考えながらいろいろな動きを行うことを意識させ、後方の子どもには先頭の動きをより大きく行うように指導する。</li> </ul>
4 振り返りを行う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">今日の活動を振り返ろう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(オリジナルの動きができていたよ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(みんなで踊るのは楽しいな)</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 動きのレパートリーを増やしたり、友達の良いところに気づいたりするために工夫した動きをしていた友達を紹介する場を設ける。</li> <li>● 互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができたか。</li> </ul>

図2 ワークショップ型研究協議を行った授業の指導案

研究協議の進め方の違いについての検討がしやすいように同様の授業者が同様のクラスに対し、同様の教科、領域を対象とし、なおかつ類似した授業を実施することとした。

### 2-2. フリー発言型研究協議

フリー発言型研究協議は、従来から広く一般的に行われており、附属校園の研究協議においても採用されている進め方である。フリー発言型研究協議の進め方については以下の通りであった。

#### 【フリー発言型研究協議】

1. 授業者の自評
  - ・授業の反省点と改善点
  - ・授業の授業者としての目標
2. 観察者による授業者への質疑・応答
3. 指導助言
  - ・授業ならびに研究協議をふまえ、附属小学校教諭および大学教員が指導助言を行う
4. 総括
  - ・授業ならびに研究協議をふまえ、授業者が総括を行う

### 2-3. ワークショップ型研究協議

ワークショップ型研究協議は、授業を参観し気づいた点（評価できる点、改善すべき点、疑問点）を付箋紙にメモし、それを研究協議で集約、整理する作業を全員で行いながら、授業の問題点や課題を焦点化していく方法である。具体的な進め方は以下の通りであった。

#### 【授業観察】

1. 授業参観者は3色（赤、青、黄）の付箋紙を数枚持って授業を参観する
2. 授業を観察しながら気づいた点について、評価できる点は赤の付箋紙へ、改善すべき点は青の付箋紙へ、疑問点については黄の付箋紙へメモする
3. 1枚の付箋紙には1つの内容をメモすることとし、名前も記入する
4. 授業中あるいは授業後に授業の進行過程が記されたボード（リフレクションボード）にメモした付箋紙を貼る

#### 【ワークショップ型研究協議】

1. 授業者の自評
  - ・ 授業の反省点と改善点
  - ・ 授業の授業者としての目標
2. リフレクションボードのメモの整理
  - ・ KJ法の要領で類似した内容をまとめていく
3. 意見交換
  - ・ 司会者（附属小学校教諭）の進行により、リフレクションボード見ながら、意見交換を行う
  - ・ 意見交換を行う際、意見が集中している点や、意見は少ないが授業改善に重要となる視点、授業者の目標に対応した点を留意しながら司会者がファシリテイトする。
4. 指導助言
  - ・ 授業ならびに研究協議をふまえ、附属小学校教諭および大学教員が指導助言を行う
5. 総括
  - ・ 授業ならびに研究協議をふまえ、授業者が総括を行う

### 2-4. データの収集

フリー発言型研究協議（B）、ワークショップ型研究協議（A）を終えた後、それぞれの研究協議のあり方について検討するために質問紙調査を行った。質問内容は「1. 本日の協議（A）の方法はいかがでしたか。従来の協議（B）と比較して、やりやすかった点、や

りづらかった点について記述して下さい」「2. 協議のねらいには、以下の内容が挙げられます。その点を踏まえ、本日の協議（A）と従来の協議（B）の意義を比較して下さい。上記と重複する場合には、その点がわかるように記述して下さい」の2点であった。

- ・ 授業者の意図を踏まえた意見を述べるができる
- ・ 単元を見通した意見を述べるができる

なお、協議のねらいは以下の2点である。

図3は調査に使用した質問紙を示した。

専修： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

1. 本日の協議（A）の方法はいかがでしたか。従来の協議（B）と比較して、やりやすかった点、やりづらかった点について記述して下さい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

2. 協議のねらいには、以下の内容が挙げられます。その点を踏まえ、本日の協議（A）と従来の協議（B）の意義を比較して下さい。上記と重複する場合には、その点がわかるように記述して下さい。

- ・ 授業者の意図を踏まえた意見を述べるができる
- ・ 単元を見通した意見を述べるができる

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございました。

図3 調査に使用した質問紙

## III 結果と考察

### 3-1. 研究協議の実際

フリー発言型研究協議、ワークショップ型の研究協議ともに、授業を参観した実習生の意見やそれに対する授業者の意見等、活発な意見交換が行われていた。



図4はフリー発言型研究協議の様子、図5はワークショップ型研究協議の様子について示した。



図4 フリー発言型研究協議の様子



図5 ワークショップ型研究協議の様子

### 3-2. フリー発言型とワークショップ型研究協議の比較

よりよい研究協議のあり方について検討するために、フリー発言型研究協議とワークショップ型研究協議との比較検討を行った。

図6はフリー発言型研究協議とワークショップ型研究協議において、やりやすかった点、やりづらかった点についての意見を示した。

	フリー発言型の研究協議	ワークショップ型の研究協議
やりやすかった点		<ul style="list-style-type: none"> <li>付箋紙に書いてあることを見ることによって観察者が、どう思ったのか、何が疑問であったのかを事前に把握することができ、返答を用意しやすかった。</li> <li>付箋紙の内容を中心に協議が進むことにより、突発的な意見や意見の重複がなくよかった。</li> <li>意見が多い内容や評価できる点なのか、改善すべき点なのか視覚的に確認することができた。</li> <li>リフレクションボードを囲むことにより、話しやすい雰囲気となり、意見がでやすかった。</li> <li>手を挙げなくても自分の意見がでていることから、意見を言いやすかった。</li> <li>フリー発言型の研究協議ではでてこないような小さな意見も付箋紙により確認することができた。</li> <li>自分の意見と他者との意見を共有しやすかった。</li> <li>付箋紙の内容を分類して貼ることにより、協議すべき内容が明確となった。</li> <li>授業者にとって今後の課題がわかりやすかった。</li> </ul>
やりづらかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察者からの意見が批難のように聞こえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモだけでは、書いている人の意図が理解しづらいことがあった。</li> <li>疑問点について、時間内に全て明らかにしていくことができなかった。</li> <li>付箋紙のメモが見えづらく、分類する際、一部の人に任せてしまったり、司会者が読み上げないと内容がわからなかいことがあった。</li> <li>司会者の力量がないと進行が滞ってしまう。</li> <li>意見を変更したいときに言い出しづらかった。</li> </ul>

図6 フリー発言型研究協議およびワークショップ型研究協議の比較

フリー発言型研究協議は附属校園の教育実習において一般的に実施されている協議方法である。一方、ワークショップ型の研究協議は、教育実習生、教育実習先の教諭ともに初めての試みであった。くわえて、ワークショップ型研究協議の直後に質問紙調査を実施したことから、ワークショップ型研究協議に関する意見が多かったことが考えられる。とはいえ、ワークショップ型研究協議は概ね肯定的に評価されていたことが確認できた。

しかしながら、ワークショップ型研究協議のやりづらかった点として挙げられている司会者の力量について見過ごすことはできない。

なお、この結果は、日野（2010）が、愛媛大学教育学部附属中学校の教育実習生を対象に行った研究と同様であった。

また、研究協議のねらい（「授業者の意図を踏まえた意見を述べることができる」「単元を通じた意見を述べるができる」）を踏まえ、フリー発言型研究協議とワークショップ型研究協議の比較を求めた。

その結果、以下の様な意見があった。

- ・ ワorkshop型研究協議では、授業者の自評を聞く前に授業中に気づいたメモを書いているので、必ずしも授業者の意図を踏まえた意見になっているとは限らない。
- ・ ワorkshop型研究協議では、リフレクションボードが時間軸となっていることから単元についての意見が出づらかった。

上記のように、研究協議において教育実習生に身につけて欲しいねらいである「授業者の意図を踏まえた意見を述べるができる」「単元を通じた意見を述べるができる」を踏まえて比較した結果、フリー発言型研究協議の方が評価できる結果であった。

これは、研究協議の参加人数が同程度であったために、意見の出やすさ以上に意見の内容に視点がおかれたことが考えられる。

フリー発言型研究協議、ワークショップ型研究協議の両方の司会を担当した附属小学校教諭からは以下の様な意見がよせられた。

- ・ ワorkshop型研究協議では、付箋紙のメモにより実習生の関心を示した内容が把握しやすいため協議の進行がしやすかった。

- ・ ワorkshop型研究協議では、司会者が付箋紙の内容を把握する時間が協議時間外にあるとより進行がしやすかった。
- ・ 1つの内容に対し、肯定的意見と否定的意見とが視覚的に把握できるため、協議が深まりやすかった。

また、研究協議のねらい（「授業者の意図を踏まえた意見を述べるができる」「単元を通じた意見を述べるができる」）を踏まえた司会者の意見としては、いずれもワークショップ型研究協議を肯定する意見であった。

このように司会者自身の意見からも、司会者の力量が問われることがうかがえた。

#### IV まとめ

本研究では、教育実習における授業実践の研究協議を対象とし、そのあり方についてフリー発言型とワークショップ型の比較検討を行うこととした。

その結果、ワークショップ型研究協議を評価する結果が得られた。近年、授業参観者の主体的な参加を促すためにワークショップ型研究協議が取り入れられつつある。

よりよい授業を実現するためには、授業実践の経験とともに、その実践についての問題点や課題を的確に捉え、それを次からの授業実践で改善していく力が必要である。すなわち、研究協議の場が重要な意味を持っており、より質の高い研究協議を行うことは、教育実習の充実や実践的指導力を身につけるために大きな役割を担っている。

また、研究協議のあり方自体を学ぶことも教育実習の充実にむけて重要といえる。いくつかの研究協議のあり方を経験し、それぞれのメリットやデメリットを理解することにより、どうすれば研究協議が活性化し、よりよい授業改善につなげることができるかについて学生が考えることは、研究協議を充実させるためのポイントとなることはいまでもない。

子どもの「学び」を導くことが教師の仕事である以上、教師自らが「学び」の主体であることが前提条件となる。つまり教師は、生涯にわたって学び続けなければならない。そのためには教師の「学び」を支える能力を養成段階で身につけておく必要がある（糸岡, 2010）。この能力こそが「ふりかえる力（省察力）」であり、この能力を身につけていくためには、研究協議のあり方が重要となる。すなわち、授業実践による理解と授業実践をふりかえることによる理解が教師の

成長を促しているのであり、そこでは理論と実践の往還が重視されなければならない。

教育実習は、教員を目指す学生が互いに授業実践や研究協議を通して切磋琢磨しながら実践的指導力を向上させていく場である。そこでは、同僚性のもとで互いに高め合う意識が重要であり、その経験が将来、教員となったときの鍵となる。教員養成段階において、学生同士で切磋琢磨し研鑽を積んでいくために、また、熟練の教師に学んでいくためにも、同僚性の構築が求められている。

このような中、授業実践の事実に基づく研究協議は、実践的指導力を育むための貴重な経験の場であり、今後より質の高い研究協議のあり方が求められている。

## 文献

日野克博（2010）教育実習での研究協議の進め方（愛媛大学での実践）。梅野圭史・海野勇三・木原成一郎・日野克博・米村耕平編著。教師として育つ-

体育授業の実践的指導力を育むためには-。明和出版, pp. 84-89.

糸岡夕里（2010）体育授業で求められる教師の能力。高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著。新版体育科教育学入門。大修館書店, pp. 251-256.  
教員養成の在り方に関する特別委員会（2010）教員養成制度改革案（養成期間延長・教育実習1年化）の問題点と教員の資質向上策の基本的課題。日本教育学会。  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/giji/\\_icsFiles/afielddfile/2010/08/06/1295779\\_13.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/giji/_icsFiles/afielddfile/2010/08/06/1295779_13.pdf)（2014/01/15）

## 付記

本研究にご協力頂いた愛媛大学教育学部附属小学校教諭大奈路睦先生，ならびに実習生のみなさんに感謝申し上げます。